

◆年頭のごあいさつ

平成26年(2014年)1月
日本撚糸工業組合連合会
理事長 北場利美

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、ご壮健で新しい年を迎えられましたことに対しまして、心からお慶び申し上げます。

さて、顧みますと、昨年我が国経済は、アベノミクス効果により円高の是正と株高が急速に進み、全体では長年続いていたデフレからの反転の兆しが見られるようになりました。

こうした中、繊維業界も一部では、比較的堅調に推移したものの、10月以降、特に消費税率が5%から8%に引き上げられることが正式に決定された頃から、繊維製品の消費全体が徐々に減少し、先行き不透明な状況となりました。

我々撚糸業者につきましても、今後のTPP交渉の行方、さらには電力料金の値上げ等、業界を取り巻く環境は厳しい状況が見込まれますが、このような状況を打破するためにも、連合会・産地組合での意見交換を活発化し、業界内の結束力を強める必要があると考えております。

年頭にあたり、決意も新たに、業界の活性化のため全力を尽くしてまいりたいと存じますので、皆様方より一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、関係各位のご健勝とご繁栄をご祈念申し上げ年頭のご挨拶とさせていただきます。

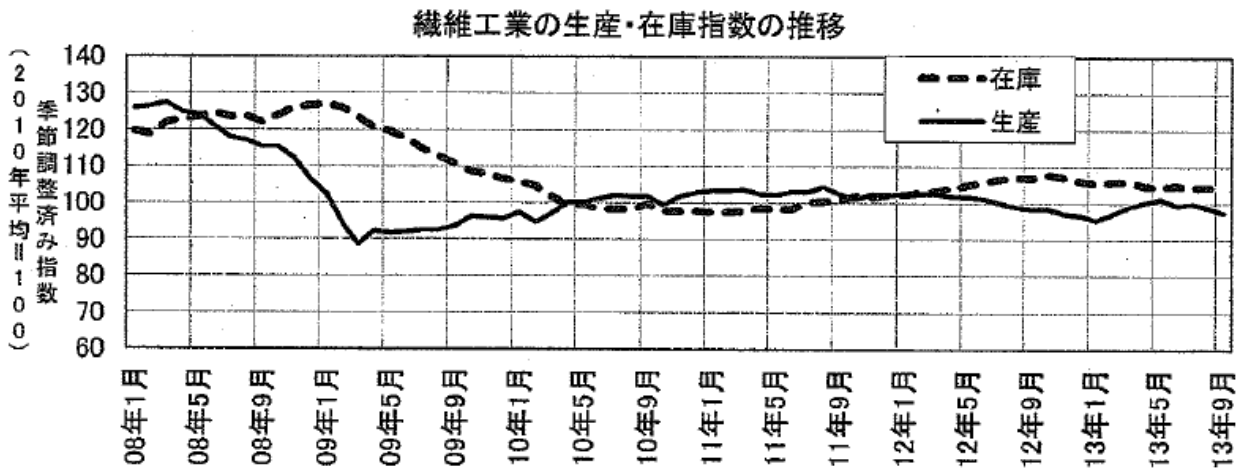
◆日本の繊維産業の現況について

昨年12月10日に日本繊維産業連盟常任委員会が開催され、「日本の繊維産業の現況について」以下のとおり報告がありました。

日本の繊維産業の現況について

I. 景況全般について

繊維産業の各種指標は、11年は震災の復興需要に支えられ10年比改善の指標が見られたものの、12年後半以降は主な生産・貿易指標の前年対比マイナスが続き、貿易収支の赤字幅は今夏以降、更に拡大傾向にある。13年の年明け以降、超円高は是正されたが、粗原料価格、エネルギーコストの上昇に加えて、加工賃増加による持ち帰り製品単価アップなどの影響が目立っている。円高是正を受けて、今後の輸出増加に期待がかかるが、絶え間ない素材開発と新商品企画作り、新用途開発に業界全体で取り組む必要がある。



II. 各種指標に関して

1. 主要生産指標

(1) 主要繊維の生産量は、今年後半にかけて持ち直し傾向にあるが、震災があった11年よりもむしろ悪化している。リーマンショック前の08年と比較すると各アイテムとも大幅にダウンしている。

① 化合繊維の13年1～9月生産量は、前年同期比99.8%

11年同期比：95.6%、08年同期比：88.8%

② 綿糸の13年1～9月生産量は、前年同期比99.5%

11年同期比：85.9%、08年同期比：57.2%

③ 毛糸の13年1～9月生産量は、前年同期比98.4%

11年同期比：102.1%、08年同期比：88.1%

(2) テキスタイルの生産量 (m²、重量) はリーマンショック前の6割強の水準。

④ 織物の13年1～9月生産量は、前年同期比97.7%

11年同期比：95.4%、08年同期比：66.5%

(a) 合繊維物：前年同期比96.1%

(b) 綿織物：前年同期比106.3%

⑤ ニット生地の13年1～9月生産量は、前年同期比93.4%

11年同期比：93.4%、08年同期比：71.8%

⑥ 染色整理高に関しては13年1～9月は、前年同期比95.5%

11年同期比：92.2%、08年同期比：71.4%

2. 主要貿易指標

(1) 輸出入とも09～11年まで回復基調、12年に入り停滞が続いていたが、今年に入って再び回復傾向にある。

しかしながら、円ベースでの12年貿易赤字は昨年比3%拡大し、13年1～9月の貿易赤字は前年同期比23.5%まで拡大している。

年	輸出		輸入		繊維品貿易収支	
	億円	億ドル	億円	億ドル	億円	億ドル
2007	10,334	87.9	36,085	307.0	△25,751	△219.1
2008	9,413	91.1	34,309	332.3	△24,896	△241.2
2009	7,146	76.5	30,227	323.8	△23,081	△247.3
2010	7,828	89.4	30,021	343.9	△22,193	△254.5
2011	8,118	101.9	33,960	427.0	△25,842	△325.1
2012	7,897	98.9	34,506	432.7	△26,609	△333.8

【2013年1～9月の繊維貿易】

<輸出>円ベース 6,349億円 (前年対比107.9%)
(11年対比105.7%)

\$ベース 65.5億\$ (前年対比88.5%)

<輸入>円ベース 3兆516億円 (前年対比119.9%)
(11年対比120.6%)

\$ベース 315.3億\$ (前年対比98.3%)

① 国別輸出(円ベース)は、前年対比でASEAN向けがベトナム110.8%、インドネシア115.2%など依然拡大基調。一方、中国向けは103.6%。EU向けも110.5%と堅調。

【シェア】中国：34.9%(前年同期比△1.4)、アセアン：21.0%(同+0.5)

② 国別輸入(円ベース)は、前年対比でASEANからがベトナム135.9%、インドネシア135.1%、またバングラデシュからも139%と大幅増。中国からは前年対比で117.3%となっているが、シェアはダウン。

【シェア】中国：70.2%(前年同期比△1.6)、アセアン：15.3%(同+1.7)

3. 主要消費指標

- (1) 家計調査消費支出は年明け以降、前年比プラスが続き、衣料品の店頭売り上げ指標は不順な気候（夏場の猛暑による秋物販売の不調、10月の大型台風の到来による来店者減等）に左右されつつも、百貨店では回復傾向が続く。
- (2) SPA売上高は両社とも前年比プラスの月が大半だが、今年是不順な気候（同上）により月毎の振れ幅が大きくなっている。

4. その他関連指標

- (1) 自動車国内生産は、経済対策の効果やエコカー減税の継続があるものの、エコカー補助金効果の剥落で、2013年上半期（1～6月）は2年ぶりに前年比マイナス。その後、国内での新車販売、米国等での自動車販売が好調で、四輪車全体ではこの9月に13ヶ月ぶりのプラスに転じた。
- (2) 新規住宅着工戸数は、住宅ローン金利や住宅価格の先高感に、来年4月の消費税増税前の駆け込み需要が加わり、依然プラスを維持している。

以上

◆ 日本燃系工業組合連合会第41回通常総会について

平成25年11月29日（金）、当連合会第41回通常総会が開催され、第40期事業報告、決算報告、第41期事業計画、予算等が承認されました。

◆ 第49回日本燃系青年協議会全国大会の開催について

来る2月15日（土）、新横浜フジビューホテル（神奈川県横浜市）におきまして日本燃系青年協議会の全国大会が開催されます。前回同様、税理士法人麩城総合経営事務所 代表社員（税理士）林 秀樹氏を講師に招き、講演会を行い、終了後全体会議（記念式典）を行う予定となっています。

また、当連合会との共催で開催いたしますので、青年会のない産地の皆様にも是非ともご参加いただきますようお願い申し上げます。

なお、参加対象者は、当連合会会員組合の組合員及び賛助会員の方となります。